

『国際協力のひとこま』 ⑧

★受託事業例紹介／マルチセクターで取り組む栄養改善（南アジア or アフリカ諸国向け）

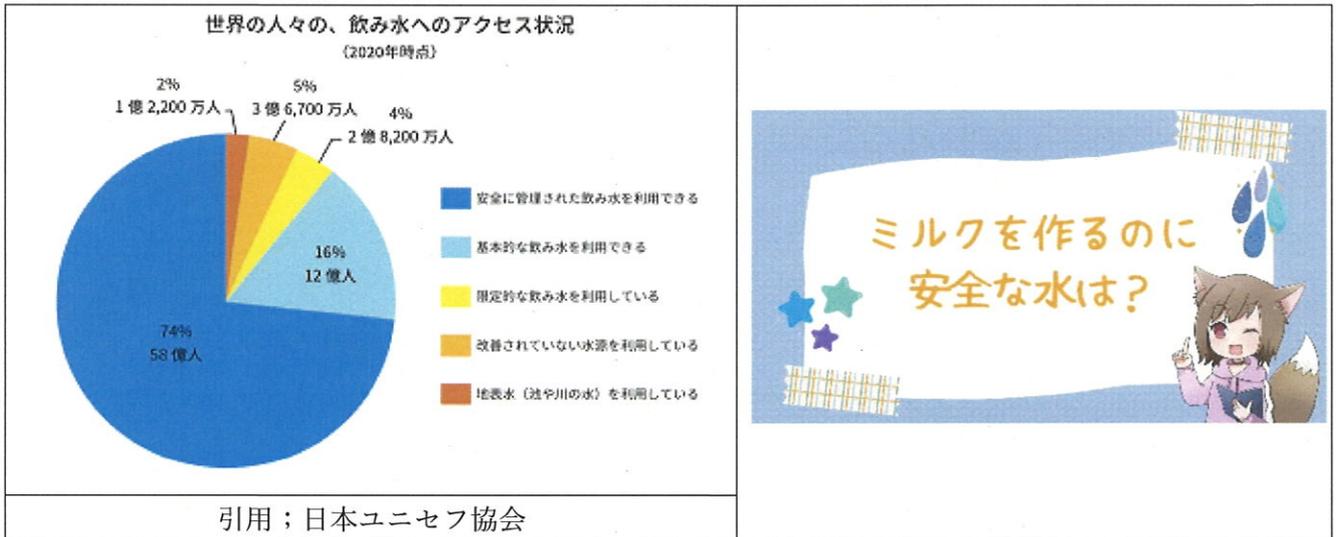
—副題；いろいろな視点で見る栄養問題 その2（水・衛生）—

今回は、栄養 이슈を『食』、つまりは、食材の使い方という視点で、ご紹介させていただきました。一方、栄養改善というと、ただ単純に、栄養素を摂取する、新しい栄養素を取り入れる、バランスよい栄養素摂取を考える、ということだけではないと思います。

具体的には、過去の国際協力の逸話、良くない例として【乳児の健全な生長のため、栄養状態の良くない母親からの母乳に替えて、栄養バランスの取れた人工乳を供与したが、供与を受けた、とある途上国内の地域で、乳児の生長率が悪化した】という逸話が、紹介されます。皆さんは、この逸話の背景について、ご存じであろうと思います。

衛生状況（粉ミルクを溶かす水そのもの）が、この人工乳に悪影響したというのが問題点です。

前述の問題が発生することは、日本では、想像しづらいのではないのでしょうか。何故ならば、国内何処にいても水道水を飲めますし、安全で、安心であることが当然ですよね。だからこそ、上記のような事態に思いが至らない可能性があるかと思われませんが、日本での当たり前が、途上国では、当たり前でないのです。具体的には、水道の整備が国内に広がっていない、水道以外の井戸やコミュニティ内の給水（貯水）施設があればよいのですが、しかし、そうした水が、衛生上、安全な形で供給されているとは限らないのです。さらに悪い状況の地域では、地表水※のみ利用しているのです。（下図参照：円グラフオレンジ or 濃いイエロー部）



その観点で、筆者が、過去、訪問したアフリカの、とある国の中での実体験ですが、急峻な山の中に存在する山村では、非常に厳しい生活環境です。山村への山道を登るにも、四輪駆動車であっても登り切るのが至難の業ともいえる急坂の上にあるのです。そうしたアクセスが悪いことが大きな障害であり、ライフライン設備も困難で、水道はもちろん、村内に井戸すら設置されていないような山村でした。そういった山村にも、数多くの住民が生活しており、小さな学校らしき建物に子供たちが集まっていました。

実は、こうした地域にいる子供たちの学びの環境を少しでも改善して欲しいということで、同地域に JICA 海外ボランティアが 1 名、派遣されていました。彼は、子供たちが集まる寺子屋風の学校にトイレを作りたい、用を足した後の手洗い器具を設けて、手洗いを覚えさせたいと、なにか改善することが出来ないものか、彼自身、支援できないものか？工夫を考えたのだそうです



こういった住環境に、あなたが住まわれた場合、どのように水を確保されますか？途上国では、あれもない、これもないといわれます。それではどうしようもない、と匙を投げてしまわれますか？JICA 海外ボランティアとして赴任していた若者のアイデアは、欲しいものが無いから、どうしようもできないと諦めることなく、現地にあるものを活用すればよい、そんなところから、思いもよらない工夫をしていました。



世界全体で 21 億人、つまり 10 人に 3 人の割合で安全な水が使えず、世界で 8 億 4,400 万人もの人が自宅で安全な水を手に入られない状況

(出典：[ウォーターエイドジャパン](#)「水の課題」)

彼自身のアイデアについては、次回、ご紹介するとして、読者の皆様は、どんな工夫が出来そうでしょうか？彼と同じ回答（アイデア）である必要はありませんので、是非、次回の記事掲載までお待ちください。

最後になりますが、今回の記事は、弊法人が実施してきた事業そのものではなく、支援事業を考える背景にどのような事情があるのか、紹介させていただきました。

以上

註：地表水※ ≡ 河川、湖沼、貯水池などの地表に存在する水、またはその総称

(文責・事務局 浅野)

#衛生 #栄養 #安全 #安心

【追伸】本記事の趣旨とは無関係ですが、ご紹介しております、とある国の山岳地、山村がある地域は、実は、世界の（長距離）トップランナーを育てるキャンプ地として、有名なところでした。（視点を変えるとネガティブに見える地が、ポジティブに感じられるのですね。）